四国森林管理局　森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

NO. ３６号

令和２年11月４日

「枝条の有効活用・地拵作業の省力化への取り組み」

伐倒・集材作業において発生する大量の枝条が地拵・植栽作業や、その後の下刈作業において支障になるなど、安全性や効率的な作業に影響を与えることが、大きな課題となっております。一方でこの枝条を木質バイオマス燃料として活用し、新たな林産物収入に取り組んでいる状況もあるとこです。

今回、枝条処理を行うため破砕機（チッパー）を導入し、地拵作業等の労働強度の軽減や加工したチップをバイオマス燃料等に利用することで、新たな林産物収入取り組んでいる箇所において、効率的な枝条処理方法の技術の習得と作業システムを検討する勉強会を徳島県のつるぎ木材加工協同組合様に協力いただき、10月２日に香川所管内の皆伐跡地の国有林で開催しました。

当日は、職員30名、林業事業体から４事業体が参加しました。ほとんどの参加者はチッパーによる枝条処理作業を見たことがなく、枝条があっという間にチップ化される作業や林内に枝条が少ない状況等を見ることができました。

現地での説明後に行った意見交換会では、「チップとして加工した場合、枝条のままで搬出するより付加価値が付くので収益が上がる」また、「現地では枝条が少なくなるので地拵・植付作業が省力化できている」等の話があり、参加者からは「コスト面が心配」「高知県ではチップ化した商品を直接持って行くところは限られてくるなど、トータルコストを考えながら導入に踏み切る勇気がいる」等の話も出ましたが、全体的には新たな取り組みに期待する声が多く聞かれました。

今回の勉強会はこれまで活用できなかった枝条が有効に活用されるとともに、更新作業の省力化に繋がることがわかるなど、有意義な勉強会となりました。

林業成長産業化構想技術者育成研修開催

四国ブロック研修が一〇月一三日～一六日の４日間の日程で開催されました。

研修は兵庫・愛媛県職員４名、民間林業事業体２名が受講しました。

国有林６名の合計一二名が受講しました。

ブロック研修では中央研修と中国ブロックの研修の二回に分けて開催されるものです。

ＩＣＴ等の開発に伴い、路網整備や森林状況を考慮した森林特性を活用した最新の技術を活用した地域の特性を考慮した地域の森林整備計画等により、産業化構想を作成し成長する技術力の養成を目的とした。

破砕機

枝条運搬

初日は外部講師等により演習地等の説明やＱＧＩＳ、ＦＲＤ等のツールを使用して路網計画の検討、「地域特性に応じた森づくりの構想」で市の〇の町民に、ブロック研修では中国の〇町村長に、あるいは有林を合せた一〇一〇年の元町事業の構想をプレゼンする地域の演習地を今後約二〇ha国有林の構想を作成する。

意見が出て良い機会になるなど、有意義な研修となりました。

補助金の携帯電話の普及により、ＩＣＴ等の開発に伴い、路網整備や森林状況を考慮した森林特性を活用した最新の技術を活用した地域の特性を考慮した地域の森林整備計画等により、産業化構想を作成し成長する技術力の養成を目的とした。

研修は、中央研修と中国ブロックの研修の二回に分けて開催されるものです。